



映像製作:イーオンバイ
 配給:ヴィレッチ/ティ・ジョイ
 著作:劇団☆新感線/ヴィレッチ

《ゲキ×シネ》最新作！
 エンゲキ シネマ

いろうえ歌舞伎☆壊 PUNK
蜚蜚峠
 かげろうとうげ

作:宮藤官九郎 演出:いのうえひでのり

古田新太 堤真一 高岡早紀

勝地涼 木村了・梶原善・栗根まこと 高田聖子 橋本じゅん

新感線×クドカンの時代活劇、ゲキ×シネで登場！

2010.2/13(土)より、全国上映スタート！

■話題沸騰！いのうえ歌舞伎☆壊<PUNK>『蜚蜚峠』

現在、演劇界で公演毎に観客を増やし、毎回チケットが即完するなど圧倒的人気を誇る劇団☆新感線と、舞台・映画・ドラマの脚本、役者やバンド活動などマルチな才能で注目を集める宮藤官九郎。

その2つの才能がコラボし、今年(09年)春に東京・大阪にて上演された傑作舞台『蜚蜚峠(かげろうとうげ)』。

新感線が得意とするカッコいい立ち回りと迫力の音楽に加え、その演目の中でも最もドラマ性に重きを置き、近年は人間模様・感情の動きを丁寧に描き、さらに“お芝居”としてじっくり魅せる方向性を示すようになってきた“いのうえ歌舞伎”シリーズ。それを脚本・宮藤官九郎が、その独特な笑いのセンスと毒でぶっ壊すという意味で、“いのうえ歌舞伎☆壊<PUNK(パンク)>”と名付けられた『蜚蜚峠』は、その期待に恥じない、まさに《何でもあり!》なアウトロー時代活劇となりました。

キャストも新感線ならではの超豪華さ！新感線の看板役者古田新太と、堤真一、高岡早紀を筆頭に、勝地涼、木村了、梶原善といった各界で活躍するゴージャスなメンバー、そして栗根まこと、高田聖子、橋本じゅんら一癖も二癖もある劇団の要俳優が勢揃いし、公演時は連日熱狂的な観客で埋め尽くされました。

■2010年2月13日(土)より、《ゲキ×シネ》全国上映スタート！

この話題の舞台が、2010年2月より、演劇の映像を映画館で見る《ゲキ×シネ》の最新作として全国に登場！

映像化にあたっては最新のデジタルシネマ技術を使用。16台のデジタルシネマカメラで収録した映像と、映画館用に調整された音で、舞台の迫力と興奮をそのままに、映像作品として新たな感動をお届けします。

ゲキ×シネ いのうえ歌舞伎☆壊<PUNK>『蜚蜚峠』は、2010年2月13日(土)より、新宿バルト9(東京)・梅田ブルク7(大阪)をはじめとする全国30館以上の上映館で、順次公開(予定)。

各メディア絶賛の舞台を、最新のデジタル映像技術で、《全席かぶりつき状態》でご覧いただけます！

また全国の上映館で利用できる全国共通前売券(2,000円)は、2009年11月28日(土)より各プレイガイド及び全国上映館窓口にて販売開始です。

■作品情報

- タイトル ゲキ×シネ いのうえ歌舞伎☆壊<PUNK> 『蜚蜚峠』 (かげろうとうげ)
※短縮表記：“ゲキ×シネ『蜚蜚峠』”
- 出演者他 [作] 宮藤官九郎 [演出] いのうえひでのり
[出演] 古田新太 堤 真一 高岡早紀
勝地 涼 木村 了・梶原 善・粟根まこと 高田聖子 橋本じゅん ほか
- 公演記録 09年3月◎プレビュー公演(東京) 3月-4月◎赤坂ACTシアター(東京) 4月-5月◎梅田芸術劇場メインホール(大阪)
- ゲキ×シネ [映像製作] イーオシバイ [配給] ヴィレッジ ティ・ジョイ [著作] 劇団☆新感線 ヴィレッジ
2010/日本/カラー/167分/5.1chサラウンド ※途中休憩あり

■ゲキ×シネ上映情報

- 公開日 **2010年2月13日(土) 全国上映スタート!**
- 上映館

| | | | |
|------------|---------------------|--------------------------|-------------------|
| ◎2月13日(土)～ | 札幌シネマフロンティア(北海道)、 | ワーナー・マイカル・シネマズ名取エアリ(宮城)、 | 新宿バルト9(東京)、 |
| | ユナイテッド・シネマ豊洲(東京)、 | MOVIXさいたま(埼玉)、 | 川崎チネチッタ(神奈川)、 |
| | シネマイクスピアリ(千葉)、 | T・ジョイ新潟万代(新潟)、 | T・ジョイ長岡(新潟)、 |
| | ミッドランドスクエアシネマ(愛知)、 | TOHOシネマズ名古屋ベイシティ(愛知)、 | 梅田ブルク7(大阪)、 |
| | なんばパークスシネマ(大阪)、 | MOVIX京都(京都)、 | TOHOシネマズ西宮OS(兵庫)、 |
| | 広島バルト11(広島)、 | T・ジョイ東広島(広島)、 | エーガル8シネマズ(広島)、 |
| | 福岡中洲大洋(福岡)、 | T・ジョイリバーウォーク北九州(福岡)、 | T・ジョイ久留米(福岡)、 |
| | T・ジョイパークプレイス大分(大分)、 | 鹿児島ミッテ10(鹿児島) | |

◎2月27日(土)～3月19日(金)
シネプレックス熊本(熊本)

◎3月6日(土)～3月19日(金)
MOVIX柏の葉(千葉)

◎4月17日(土)～
T・ジョイ大泉(東京)、

エクスワイジュー・シネマズ蘇我(千葉)、

T・ジョイ出雲(島根)、

※:現在28館。上記以外の館でも上映を予定しております。決定次第御連絡します。
- チケット **2009年11月28日(土) 前売券・発売開始 2,000円(税込)**
当日券 2,500円(税込) 当日学生・小人券 1,800円(税込)
※前売券はご鑑賞前に指定券とお引換下さい。※学生・小人券は当日窓口のみ販売となります。
- 前売販売 チケットぴあ ◎0570-02-9999 <http://pia.jp/t> 店頭 ※Pコード:461-423
イープラス ◎<http://eplus.jp/>
ローソンチケット ◎0570-000-407 『Loppi』 ※Lコード 北海道地区:11002/東北地区:22002/
関東地区:33002/東海地区:45002/近畿地区:55009/中国地区:64002/九州地区:88008
- 上映館窓口
- お客様窓口 ゲキ×シネ上映担当 03-5361-3280 (平日12:00～17:00)
- 公式サイト <http://www.kageroutouge.com> ※携帯 <http://www.kageroutouge.com/m>
- 公式ブログ <http://gxcblog.exblog.jp> ※ゲキ×シネ公式ブログとなります。

■本件に関するプレスお問合せ先

予告編映像・宣伝用画像等をご用意しております。
《ゲキ×シネ》作品DVDプレゼント、チケットプレゼントなど実施予定ございます。詳しくはお気軽に下記窓口までお問い合わせ下さい。

Palette(パレット) 境(さかい) 携帯:090-7414-7136 上地(かみじ) 携帯:090-1586-0100
Fax:050-3488-6109

●配給お問合わせ

株式会社ティ・ジョイ エンタテインメント事業部:佐々木
TEL.03-3248-8174 FAX.03-3248-8176 〒104-0061 東京都中央区銀座4-10-5三幸ビル本館5F
株式会社ヴィレッジ ゲキ×シネ担当:糸永(いとなが)/山谷(やまや) E-mail. pr@village-inc.jp
TEL.03-5361-3031 FAX.03-5361-3032 〒160-0022 東京都新宿区新宿3-3-8 新宿OTビル7F

●本リリースPDF版

http://www.geki-cine.jp/release/091110_kagerou1.pdf

いのうえ歌舞伎★壊 PUNK

蜚蜚峠

かげろうとうげ

■物語

痛快！この世の法と秩序から外れた
アウトローたちの破天荒な生き様

その男には過去がない。覚えているのは闇太郎という名前だけ。元旅役者の銀之助に誘われて蜚蜚峠を下った先は、荒廃しきった宿場町。極道者たちが勢力争いに明け暮れる荒んだ町で、闇太郎が過去と向き合う。その時、血の大河の最初の一滴が流れ始めるのだった。

阿呆かと思うと滅法腕が立つ、謎を秘めた闇太郎《古田新太》

クールに人を斬り殺す孤高の男・天晴《堤真一》

闇太郎の過去を知る宿命の女・お泪《高岡早紀》

大事なモノをなくしても能天気な旅役者・銀之助《勝地涼》

江戸帰りでハクをつけた極道一家の跡取り・サルキジ《木村了》

25年前の忌まわしい事件の生き証人、飯屋のがめ吉《梶原善》

声はでかいが気は小さい、立派組の親分・立派《橋本じゅん》

弟・天晴を溺愛する立派の女房・お寸《高田聖子》

口ばっかりの用心棒・流石先生《栗根まこと》

超豪華キャストでおくる、
新感線×クドカン流時代活劇の決定版！

■劇団☆新感線とは？

1980年つかこうへい氏に傾倒した大阪芸術大学のメンバーで旗揚げ。“笑い”を意識したオリジナルのSF活劇をひっさげ東京へ進出。

その後、劇団☆新感線の座付作家・中島かずきが書き下ろす時代活劇を、いのうえひでのりがケレン味たっぷり演出する作品“いのうえ歌舞伎”シリーズや生バンドでROCKを重視した“R”シリーズ等で、大手プロダクションと組みプロデュース公演を行うなど、現在の大劇場でのエンターテインメントの一角を築く。

公演ごとに観客を増やし、今最もチケットが取れない劇団の一つと言われる。

所属する俳優に、古田新太、高田聖子、橋本じゅんなど、映像でもお馴染みの面々がいる。

◎劇団☆新感線 公式サイト

<http://www.vi-shinkansen.co.jp/>

■作品解説

劇団☆新感線が生み出す
超一級のエンターテインメント！

宮藤官九郎の脚本を得て、さらに進化する。

カーテンコールがいつまでも終わらない。劇団☆新感線の『蜚蜚峠』は連日、熱狂的な観客で埋め尽くされた。

2010年で結成30周年を迎える劇団☆新感線は、座長のいのうえひでのりの妥協のない演出のもと、毎回、極上のエンターテインメント作品を創り続けている驚異の劇団。どの公演も満員御礼、万雷の拍手で迎えられている。新感線には、お笑い中心の“ネタもの”と、音楽を前面に出した“音もの”、そして物語性豊かな時代活劇“いのうえ歌舞伎”など、多彩なラインアップがある。中でも“いのうえ歌舞伎”は、05年『吉原御免状』以来“第二章”と銘打って、より人間ドラマを深め進化してきた。そしてこの『蜚蜚峠』は、宮藤官九郎の脚本を得て、さらなる一步を踏み出した記念的作品となっている。

宮藤官九郎は、新感線には06年に『メタルマクベス』を書いているが、これはシェイクスピアの『マクベス』をベースにした作品だった。『蜚蜚峠』は初の完全オリジナル、しかも“いのうえ歌舞伎”としては初登場！ 主役の闇太郎ばかりか、登場人物のほとんど全てがアウトローという極端な設定で、観客を驚かせた。特に冒頭は、掟破りのコント・シーンで、“いのうえ歌舞伎”をぶっ壊す！ という意味で〈壊〉と書いてパンク(PUNK)とルビをつけているのもうなづける。とはいえ、カッコいい立ち回りもしっかり盛り込まれ、お楽しみは満載だ。キャストは新感線ならではの超豪華さ！ 劇団の看板俳優である古田新太が、とぼけた味をだしつつも、腕が立つ闇太郎で主演。闇太郎に対する敵役・天晴には映像、舞台ともに大活躍の堤真一、非情な男の虚無感が際立つ。闇太郎が心を寄せるお泪には、繊細さと妖艶さを併せ持つ高岡早紀。その明るさで闇太郎の支えとなる銀之助には、勝地涼、秘密を抱えた極道一家の跡取り、サルキジには木村了と若手の最注目株が二人も揃う。

そして、25年前の事件の生き証人、飯屋のがめ吉には芸達者な梶原善。栗根まこと、高田聖子、橋本じゅんなど劇団の要俳優たちも総出演で、ドラマを盛り上げる！

笑いの中にも、後に続く伏線がしっかりと盛り込まれ、意外な事実の連続が、サスペンシ的な面白さともなっている。アウトローとして生きるしかない人間たちの、たくましさと悲しさを、描ききった新感覚の娯楽超大作時代活劇！

ゲキ×シネ化にあたっては最新のデジタルシネマ技術を使用。16台のデジタルシネマカメラで収録した映像と、映画館用に調整された音で、舞台の迫力と興奮をそのままに、映像作品として新たな感動をお届けする。

■What's GEKI×CINE?

ダイナミックな映像表現と迫力の音響で、演劇の映像を映画館で楽しむ新感覚エンターテインメント<ゲキ×シネ>。

演劇は観客も舞台上の人間もその時間・空間の空気を一緒に味わうとても贅沢なエンターテインメントです。しかし、それ故に色々と制約があるのも事実。例えば、

- ◎人気の舞台はなかなかチケットが取れない。
- ◎時間・場所の制約で気軽に観られない。
- ◎公演期間が終了すると永久に見る手段を失うことになってしまう。...などなど。

そこで、私たちは<ゲキ×シネ>を通じて、日本の演劇が輩出する素晴らしい作品群、中でも圧倒的な人気を誇る劇団☆新感線の作品を映画館で上映し、もっと自由に・気軽に楽しめる良質な演劇映像を製作・提供していこうと考えました。

作品を初めて観る人には衝撃を。そして生で舞台を観た人には別の新しい楽しみ方ができる映像作りを。作品の面白さはもちろん、キャストの魅力、衣裳・メイク・舞台美術・照明・音響・小道具など、舞台上を彩るすべての要素、そして演劇に一番大切な空気感・ライブ感をそのまま凝縮して映像化し届けることを目指しています。

演劇が持つ生のライブ感と映像ならではの表現が紡ぎだす新しいエンターテインメント、<ゲキ×シネ>にどうぞご期待ください。

◎ゲキ×シネ公式サイト <http://www.geki-cine.jp/>

■ゲキ×シネ ヒストリー（下記は全てデジタル上映を行っています）

- 2003秋 [ゲキ×シネ] プロジェクトスタート
- 2004春 『髑髏城の七人～アカドクロ』 CineAlta12台で24P撮影
『阿修羅城の瞳2003』（舞台製作：松竹）を広島バルト11にてトライアル上映
- 2004秋 『髑髏城の七人～アカドクロ』 丸の内東映ほか全国12スクリーンにて上映
- 2005春 『髑髏城の七人～アオドクロ』 丸の内東映ほか全国15スクリーンにて上映
- 2005秋 『SHIROH』 シネクイントほか10スクリーンにて上映
- 2007春 『メタルマクベス』 新宿バルト9 オープニング特別上映
- 2007秋 『朧の森に棲む鬼』 新宿バルト9 ほか全国20スクリーンにて上映
- 2008春 『ゲキ×シネ ツアー2008』 新宿バルト9 ほか全国18スクリーンにて上映
- 2008秋 『髑髏城の七人～アカドクロ』 ゲキ×シネ初の海外上映として韓国上映を実施
- 2009春・秋 『五右衛門ロック』を[春の陣][秋の陣]と分け全国33スクリーン(同館凱旋上映含む)にて上映

■ゲキ×シネの技術とデジタルシネマ

◎デジタルシネマとは？

映画が世に登場して110年強、フィルムの存在自体が変化しようとしている——。それが、このデジタルシネマの登場です。

これまで映画製作において、フィルムはなくてはならない存在でした。しかし、デジタルデータによって、撮影、編集、配給、上映を行う規格を示したいわゆるDCI(Digital Cinema Initiatives)規格が、06年にハリウッドメジャーを中心とした映画業界に支持されました。これがきっかけとなり、全米では2009年中にデジタルシネマを実装したスクリーンが、8,500を超えると言われています。

◎国内の動向

ゲキ×シネがスタートした04年当時には、わずかに10スクリーン足らずだった日本国内のデジタルシネマが、09年中にも300スクリーンに届く勢いで普及しつつあります。

また、09年は3-D元年とも言われており、大量の3D作品がハリウッドから日本に上陸します。これらの上映に際しては、デジタルシネマのインフラが必須となることは言うまでもなく、国内でのデジタルシネマのスクリーン数がさらに拡大することが予想されています。また、ジェームス・キャメロン監督の注目の作品、3-D実写のSFアクション「アバター」が、09年度中に上映が決まっており、今後の国内の動向が注目されます。

◎ゲキ×シネとデジタルシネマ

“ゲキ×シネ”は、デジタルシネマの技術の恩恵を受けています。

そもそも3時間を越える舞台の撮影をフィルムで行うことは不可能です。SONY F950を中心としたCineAltaにてマルチカム撮影(蜚蜚峠の場合16台)をおこない、HDCAM-SRにて24P収録。ポストプロダクションはDI(Digital intermediate)工程を経て、最終的にDCP(Digital Cinema Package)となり、ゲキ×シネをロールアウトすることになります。

これらの流れは、今までスクリーンでの上映が不可能だったコンテンツ、たとえば演劇やコンサートをスクリーンに送りだすことが可能となりました。

ゲキ×シネの登場時は、日本国内は黎明期とも言え、国内で先行してデジタルシネマのインフラを導入して実績を重ねてきたティ・ジョイの協力が得られたことは、現在の基礎技術を育成していく上で重要なことでした。

新しいことへのチャレンジ。すべてのスタッフがトライした結果が今のゲキ×シネのかたちです。

まさにゲキ×シネの歴史は、デジタルシネマの登場と生育に歩調を合わせたかのように、日進月歩で紡ぎ上げられています。